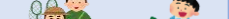


デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業 評価結果（令和５年度）

事業名	「農のある生活」を契機とした地域経済活性化及び農業振興事業					事業開始	令和5年度	事業終了	令和7年度	直近の評価実施日	令和6年7月11日		
事業概要	令和5年度 農業体験コンテンツの開発・キャンパススペースコンセプト調査 令和6年度 より滞在時間の長い農業体験コンテンツの開発 令和7年度 キャンパススペースを活かした滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備 副業・兼業での農のある生活の担い手を発掘、活用するモデルケースの構築 ○ キャンパススペースの調査 ○ 農業体験コンテンツの開発、実施 ○ 花の寄せ植え、酒造り、生き物観察会、ジャムづくり等の体験講座 ○ スマート農業研修会 ○ 農業体験コンテンツの開発、実施 ○ モニターツアー企画 ○ 民間活力を活用した拠点施設運営の検討 ○ スマート農業研修会 ○ 滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備 ○ 兼業副業による農のある生活の担い手発掘・活用モデル構築 ○ 市民農園利用での移住者や副業等の実施者をモデルとした「農のある生活」のPR ○ 翌年に開業を控えたキャンパススペースPR  副業・兼業での関わり  観光  野菜の購入  食の体験  生き物観察  収穫体験  キャンパススペース  農業ふれあいセンター・BBQ場  将来的な就農												

【事業の実績】													
年度	位置づけ	実施内容	事業費	交付金実績額	重要業績評価指標（KPI）					事業の自己評価（① 非常に有効であった ② 相当程度有効であった ③ 効果があった ④ 効果がなかった）		外部有識者の評価（① 効果があると認められる ② 改善が必要である）	
					指標	単位	目標値	実績値	達成状況	評価	コメント	評価	コメント
令和５年度	本年度は、農業の魅力に触れる人々のすそ野を広げるために、知的レクリエーションをコンセプトとする農業体験コンテンツを開発し、実施するとともに、時間的広がりのある「農のある生活」を提供するためのキャンパススペースの調査を行い、「農のある生活」の環境の整備に向けた取組を行う。	○「農のある生活」の環境整備 ・キャンパススペース調査（委託料）2,030千円 ○「農のある生活」を楽しむ、都市農業の魅力を知ることができる「知的レクリエーション」をコンセプトとする農業や食の体験コンテンツの開発、実施 ・体験講座講師費用（補助金※）205千円（報償）120千円 ○効率的な農業を実現するスマート農業研修会の開催 ・講師費用（補助金※）60千円 ※蔵 in ガルテン川越グリーンツーリズム推進協議会への補助金	2,082,350	1,041,175	農産物直売所の年間販売額	億円	8.3	8.0	96.4%	③	増加しているグリーンツーリズム拠点施設の利用者の多くが伊佐沼農産物直売所にも立ち寄ること等により、市内農産物直売所の年間販売額にある程度効果があった。	①	【評価】グリーンツーリズム施設の整備推進等に伴い、知名度等もアップ、結果、農産物直売所の販売にも寄与したほか、様々な魅力ある体験コンテンツが開発され、ノウハウの蓄積が進んでおり、効果があると認められる。また、産学官連携を図れたのは非常に評価すべきポイントである。若い世代が事業を通じて地域（農業）に目を向けるきっかけにも繋がるのではないかと。引き続き、大学・学生を拠点施設の支え手（担い手）として連携を深め、さらには産官学の連携を強化することで官民上げでの取組事例にしていただきたい。
					グリーンツーリズム拠点施設における新たな支え手の人数	人	3	4	133.3%	②	農業、食の体験コンテンツについて「知的レクリエーション」をコンセプトとしたことで、女子栄養大学との連携が構築された。これをきっかけに、同大学の学生たちが拠点施設の支え手として体験に従事するなど、さらに連携を深めることができた。	①	【KPI】支え手の人数は母数が少ないため、KPIの数値自体にこだわらないが、よい取り組みであると感じる。平均して1週間に800名程度の来訪者があり、地元農産物の販路としても機能している。事業に安定性、継続性を感じられる。
					グリーンツーリズム拠点施設利用者数	人	42,200	41,945	99.4%	③	「知的レクリエーション」をコンセプトとする農業や食の体験コンテンツを開発し、体験コンテンツ数を増加させた。（R4体験事業数56→R5体験事業数86）	①	【意見・課題】いるま野農業協同組合が運営している農産物直売所（あぐれっしゅ川越）と伊佐沼農産物直売所は非常に距離も近く、商品も同じものが多いため、差別化よりも協力していくほうがよいのではないか。川越市中心街からグリーンツーリズム拠点施設へのアクセスに、改善余地はないか。観光客に対し、増加させた体験コンテンツの周知徹底が図られているか。

【令和６年度以降の予定】

年度	位置づけ	実施内容	事業費	交付金実績予定額	重要業績評価指標（KPI）			外部有識者の意見等	実施の方向性
					指標	単位	目標値		
令和６年度	川越の都市農業の魅力を発信し、その魅力に触れる人々を市内外に増やしていくとともに、グリーンツーリズム拠点の民間活力を活用した管理運営のあり方を検討する。キャンパススペースの整備について、デジタル田園都市国家構想交付金・地方創生拠点整備タイプの活用の検討を開始する。	○「農のある生活」を楽しむための農業体験コンテンツの開発、実施 ・体験講座講師費用(報償)90千円（補助金）36千円 ・モニターツアー企画(補助金) 400千円 ・動画の制作(補助金) 200千円 ○民間活力を活用したグリーンツーリズム拠点施設運営の検討 ・民間活力活用調査費(委託料) 8,000千円 ○効率的な農業を実現するためのスマート農業研修会の開催 ・実施費用（委託料） 200千円	8,926,000	4,463,000	農産物直売所の年間販売額	億円	8.8	【動画】「動画の制作」について、動画を視聴した方が「農のある生活」を体験したかのような疑似体験ができるような内容が良いのではないか。 【PR】作成したPR動画や、利用者にも体験をインスタなどSNSで積極的に発信してもらい、PRを進めていただきたい。駅構内や一番街等での観光客に対する直売所や拠点施設の周知が必要ではないか。 【支え手】市内大学等、女子栄養大学以外の幅広いリードの開拓も図られたい。活動がサステナブルになることが望ましい。 【民間活力】県内において、民間主導による複合施設の運営事例がある。官民連携を強化し、民間活力の活用を積極的に行っていただきたい。 【農業のデジタル化】またスマート農業の実現は、都市農業の普及に寄与するものと考えられ、望ましいと考えます。 【交通】拠点施設利用者を増加させるためには、利便性の高い交通手段の確保が重要ではないか。	いただいた意見を踏まえながら、事業の位置づけのとおり、川越の都市農業の魅力を発信し、その魅力に触れる人々を市内外に増やしていくとともに、グリーンツーリズム拠点の民間活力を活用した管理運営のあり方を検討する方向で推進する。 利便性の高い交通手段の確保については、令和７年度に実施予定の交通アクセス実証実験に向け、検討をすすめる。
					グリーンツーリズム拠点施設における新たな支え手の人数	人	6		
					グリーンツーリズム拠点施設利用者数	人	43,000		
令和７年度	9キャンパススペースを活かした滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備、発信を進めるとともに、副業・兼業での農のある生活の担い手を発掘、活用するモデルケースの構築を行う。	○滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備 ・旅行会社担当者向け個人旅行モニターツアー企画 500千円 ・交通アクセス実証実験費用 500千円 ○「農のある生活」を楽しむための農業体験コンテンツの開発、実施 ・体験講座講師費用 60千円 ○兼業・副業による農のある生活の担い手発掘、活用モデル構築 ・農業体験 兼業・副業人材費用 360千円 ・体験農園園場管理 副業・プロボノ人材費用 237千円 ○翌年に開業を控えたキャンパススペースPR ・キャンパススペースPR費用 2,000千円 ・「農のある生活」のPR活動費用 1,000千円	4,657,000	2,328,500	農産物直売所の年間販売額	億円	9.2	【キャンプ場運営】山間部の本格的なキャンプよりは、キャンプビギナーやファミリーなどがロケーション的にはターゲットかと考えられる。形から入る方が多いことが予想されるため、キャンプ用品メーカーとのコラボなども検討してみたいかがか。 【コンテンツ拡充】1回限りの体験の他、種まき、育成、収穫など自分で育てた作物物を自ら収穫・調理・食すなど、継続的に利用するプログラムがあると、川越に複数回滞在することになり、馴染みも深まる。利用者が滞在を通じて、市内を循環するよう相互に連携した仕掛けも試していただきたい。 【直売所のPR】農産物直売所の年間販売額、創意工夫でぜひ目標額を達成していただきたい。達成には、直売所の魅力発信が重要と考える。	事業の位置づけのとおり、キャンパススペースを活かした滞在型グリーンツーリズムの受入れ準備、発信を進めるとともに、副業・兼業での農のある生活の担い手を発掘、活用するモデルケースの構築を行う方向で推進する。 令和７年度予算要求や、令和７年度分の交付金実施計画策定に向けて、いただいた意見を踏まえながら、事業の具体的な内容の検討をすすめる。
					グリーンツーリズム拠点施設における新たな支え手の人数	人	9	【新たな支え手】働き方改革を推進し、より充実したワークライフバランスを実現するための事例としてほしい。 【運営手法】滞在型グリーンツーリズムは、伊佐沼近隣の資源を活用した事業プランである。事業規模もコンパクトにまとまっている。一過性の事業とするのではなく、持続性、安定性を重視した事業運営を心掛けてほしい。	
					グリーンツーリズム拠点施設利用者数	人	43,800		